

藤原直哉の

ワールドレポート

大文字版
第1287号
21/02/17

民衆力が世を動かしている

おはようございます。猛烈な低気圧が日本や米国を直撃して各地で大きな被害が出ています。高潮による浸水、吹雪と凍結による事故、交通機関や企業の停止、送電線の故障による停電と暖房の停止。加えて福島沖を震源とする大地震。天変地異は世の中の変化を加速させる力になることを以前から述べていますが、今回もとにかく自力とヨコのつながり、これがないと命すら危ない時代がもう既に来ていることを多くの人に実感させています。そして新型コロナウイルスですが世界的に引き続き感染者と死者の発生数の減少が続いています。ただインドを見ると、最初からあまり効果的な隔離措置や治療ができなかった国ですが、多くの国で感染の山が3つあるのに対してインドは大きな山が1つで、そ

れはピークを越えて感染発生は減少傾向が続いており、ちょうど富士山を横から見た形のような状況になっていきます。しかし最近になって感染者の減少の速度が落ちてきているように見えます。すなわち感染者が少なくなってきたというところから感染者がいなくなつたというところまではかなり長い時間がかかる可能性があるということです。ですから既報のように今年冬が近づいて再び感染者の急増がみられないことを確認するまではコロナに対する現在の警戒態勢は全面解除とはならないのではないのでしょうか。コロナは医療崩壊が起きなければ既に治療薬も治療法もありますから死の危険はだいぶ小さくなります。すなわちせいぜい普通のインフルエンザと同程度の体制で臨むことが可能でしょう。変異種の確認が世界の数か所で行われていますが特にそれで感染者が急増したという様子はなく、日本も来月初めに緊

急事態宣言が解除され、引き続きGOTOプロジェクトも始まって国内の人の移動と経済活動はかなり戻ってくるのではないのでしょうか。しかし五輪を含めて国際的な人の移動は、各国で感染の最終的な収束状況に差がありそうですから、これがコロナ前の自由な状態に戻るのにはやはり今年の秋の様子を見てからではないかと思えます。したがって今年中はやはり海外との人の行き来はかなり制限されたままではないでしょうか。ワクチンについては日本は先進国で最も遅れて医療従事者への接種が始まります。しかし世界中でワクチンに対する警戒感は大変根強く、欧州29か国でもワクチン接種が完了したのは人口の1・5%。英国でも2割。米国では人口の3分の1がワクチンを打たない・打たないだろうと言っていて、実際にはワクチンが効いたか効かなかったかよくわからないうちにコロナが終わる可能性が大です。米